

令和3年度 第2回生駒市行政改革推進委員会分科会① 会議録

開催日時 令和3年10月7日(木) 午前10時～午前12時30分

開催場所 生駒市コミュニティセンター 201・202 会議室

出席者

(委員) 森会長、稲山委員、森岡委員

(事務局) 杉浦総務部長、後藤行政経営課課長補佐、岡田行政経営課主幹兼経営係長、天野財政課主幹、島田行政経営課同係主任

(傍聴者) 1名

欠席者 新子委員

1 開会

(事務局) 本日の案件は、「前期行動計画の取組状況の確認について」である。

2 案件

「前期行動計画の取組状況の確認について」

(会長) 先日の分科会で取組 No. 19 まで評価が終わったので、本日は No. 20 から進めていく。

No.20 都市ブランド形成

(会長) 「グッドサイクルいこま」とはどのようなページなのか。

(事務局) 生駒らしい暮らしをしている市民を Web 記事にして紹介するポータルサイトである。

(会長) 生駒らしい暮らしとは具体的にどのような暮らしなのか。

(事務局) 例えば、空き家をリノベーションして自分の好きな形に変えて生活したり、東京と生駒で2拠点生活をしたりなど、多様な暮らし方・住まい方をすることである。

(会長) 指標2のアンケートの回答者数は何名なのか。目標値と実績値の0.5%は誤差の範囲内といえるのか。

(事務局) 286名が回答し、213名が「良くなった」と回答している。

(会長) 約300名の方が回答しているのであれば0.5%は誤差といえるだろう。また、閲覧総頁数も目標を上回っているので、B評価で良いと思うのだが。

(委員) 「都市ブランド形成」という取組内容と指標がつながっていない。指標は取組を評価するものの一部であり、それが達成できたからといって、その取組を全て達成できたとは言えないのではないか。IKOMA SUN FESTA やグッドサイクルいこまがどこまで市民に浸透しているのかが分からないし、どこまで都市ブランド形成に寄与しているのかも分からない。多くの市民からすると、この指標を達成したからといってこの取組の評価がBとはならない気がする。取組内容が良い悪いではなく、この取組について知っている市民が少ないと思うので、C評価ではないか。

(会長) 行政は、“官民連携”や“都市ブランド形成”といった大きな目標を掲げるが、それ

を客観的に評価する指標を定めるのは難しく、一部を抽出して評価するしかできない。この場合は、都市ブランド形成という大きな目標を評価する一つの指標として、good cycle ikoma の閲覧総頁数等の指標を定めている。その問題点については、後期行動計画を策定する際に、より良い指標を設定できるよう審議を重ねるべきである。都市ブランドはすごく大きな内容であり、全てを評価できないので、ここでは記載されている内容で評価せざるを得ない。

- (委員) 都市ブランド形成とは、生駒市民であることに誇りを持っているかということが重要である。
- (会長) 取組内容のタイトルは担当課が決めるのか。
- (事務局) そうである。策定当時は、いこまの魅力創造課というシティプロモーションに専門に取り組む部署が内容を作成した。現在は、いこまの魅力創造課はなくなり、商工観光課と広報広聴課に業務が引き継がれている。
- (会長) シティプロモーションの取組を図る指標として、これらの指標を設定しているのであれば違和感はないのだが、都市ブランド形成となると少し違和感がある。しかし、この取組については、設定された指標で評価せざるを得ない。B評価で良いか。
- (各委員) 了承
- (会長) R2年度はどうか。IKOMA SUN FESTA はコロナにより中止となっているが、good cycle ikoma の閲覧数は伸びている。コロナの影響をどこまで加味するかではあるが、どのように評価すべきか。
- (委員) 広報広聴課と商工観光課に分かれたのはいつからか。
- (事務局) R2年度からである。商工観光課は IKOMA SUN FESTA を引き継いでから一度も開催できていない。
- (委員) 生駒市の都市ブランドやシビックプライドとは何かについて定義できていないまま取組を進めてしまっている気がする。
- (事務局) 商工観光課への所管替えに伴い、IKOMA SUN FESTA のコンセプトを変更し、事業者支援へとシフトし、ターゲットも市民へと変更する予定である。
- (委員) シビックプライドとは何かということをしっかり議論したうえで、移管する担当課を決定してほしい。テーマのないイベントでは意味がなく、生駒の何を PR するかを明確にすべきである。
- (委員) 大きなイベントをしなくても、生駒らしさを PR できるようなテーマを明確にしたイベントにすれば、結果的に全国的なイベントになるかもしれない。
- (会長) 市内部に市の将来像について議論する場はあるのか。生駒の将来像は何なのか、都市ブランドとは何なのかを共通の基盤として作り、各部署におろすという取組はないのか。
- (委員) 本来は総合計画を作るときに、生駒市の将来像について議論すべきである。
- (会長) コロナという状況を斟酌して評価すべきだと思うので、C評価でどうか。
- (委員) なぜ good cycle ikoma の閲覧総頁数が増えたのか。
- (事務局) 定期的に記事を更新したこと、SNS からポータルサイトへ誘導できるような仕組みづくりをしたことが要因として考えられる。

- (委員) 特定の人が何回も見ているのではないか。何人の人が閲覧しているのかは分析できないのか。
- (事務局) そこまで分析はできていない。
- (会長) R2年度はC評価で良いか。
- (各委員) 了承

No.28 財政指標の目標値の設定・管理

- (会長) 実質収支比率が目標を上回っているのはなぜか。
- (事務局) R元年度については、地方交付税が見込より多かったというのが大きな要因である。予算を組む際は、楽観視せず厳しめに予算を組んでいるので、乖離が生じている。R2年度についても、国から多額のコロナの臨時交付金が下りてきたので増えた。予算をきちんと執行していないのではないかと指摘もあるが、執行率は90%以上を維持しており、R2年度も94.4%の執行率である。コロナ対策を中心に必要な事業は実施している。今後についても、税収がどのように推移するか不明瞭であること、インフラの更新等の予定もあることから、楽観視できない状況である。
- (会長) 経常収支比率がかなり抑えられていると思う。福祉に係る経費を削っていないか。
- (事務局) 法令等に則り、必要なサービスを提供しているため、市の裁量で削減はできない。福祉に係る経費の中では、障がい福祉サービスに係る経費が増えている。対象者はそれほど増えていないが、一人当たりにかかる金額が増えてきているので、今後の課題となってくる。
- (会長) R2年度はコロナの交付金大きいのか。
- (事務局) はい。当初は380億円の予算規模だったものが、特別定額給付金の事務等があり、交付金の増額により500億円の財政規模となった。
- (委員) 実績だけみるとB評価だが、地方交付税の増加は自助努力ではないのでC評価とした。
- (委員) コロナが収束した後、財政がどうなるのかが心配である。
- (会長) 国から下りてきた交付金を除くと前年度と同じぐらいで推移しているのか。
- (事務局) ほぼ同じ形で推移していると思う。
- (会長) R元年度、R2年度ともにB評価で良いか。
- (各委員) 了承

No.1 事務事業の見直し

- (会長) この委員会は本来、行政改革を通じて必要な財源をどう確保するかを検討する会議である。見直しの結果が予算に反映されていないという実情をみると、厳しく評価しなければならない。コロナの影響はあるのか。
- (事務局) 中小企業融資制度はコロナの影響から制度変更が出来なかった。資料には記載していないが、マイサポいこまについては、R3年度で廃止され、予算額でみると570万円程度の削減になっている。
- (会長) 資料には、R2年度に対応したものしか書かれていないが、その後も追跡しており、R3年度に廃止等されたものはあるということ。意見書が出た次の年度から反映させ

るのは難しいか。

(事務局) 相当難しい。見直しの対象となった段階で、担当課自ら見直しを始めているところは次年度から対応できるが、意見書が出てからということであれば、次年度に反映するのは難しい。

(会 長) 意見書の内容は、前向きに検討されているのか。

(事務局) そう思っている。

(委 員) すぐに廃止・見直しにはつながっていないが、前向きには検討されていると思う。

(会 長) 姿勢が大事である。すぐに反映出来なくても、取り組もうという前向きな姿勢であれば評価が変わってくる。

(委 員) 財政が硬直化していることは、市内部だけでなく市民にもきちんと浸透しているのか。

(会 長) 市民がどう我が事として受け止めて、協力してくれるのかが重要であり、それがないと疲弊するばかりである。前向きに取り組んでいる雰囲気はある。

(事務局) 新たな市民サービスにつなげるためには削減する必要があるということは絶えず担当部局へ伝えており、意見書が提出された事業については、予算査定時にヒアリングしている。

(会 長) 行政として改革を進めていこうという努力は感じる。後年度以降もフォローしながら進めているということなので、C評価で良いと思うがどうか。

(各委員) 了承

(会 長) R2年度についてはどうか。

(委 員) R2年度の27事業に、R元年度の17事業も含まれているのか。

(事務局) 含まれていない。R元年度は17事業の意見書が提出され、R2年度に120万円、R3年度に570万円を削減した。R2年度は8事業の意見書が提出され、R3年度予算で790万円を削減した。R元年度の見直し、R2年度の見直し両方について、R4年度以降も予算額を追いかけていく予定である。

(委 員) 単年度単年度で評価するのは良いが、意見書の内容はずっと引き継いでいくものなので、別資料等で過去の意見書に対する見直し結果を提示してもらいたい。

(事務局) 意見書を受けた事業の見直しは単年度で終わるものではないので、それを評価できる資料を用意する必要があると考えている。

(会 長) コロナの影響があっても、オンラインなどで会議を開催出来たということでD評価とするか、コロナの影響を加味するとともに、意見書の内容が反映されている部分もあるのでC評価とするか。

(委 員) 担当課がD評価としているのであればD評価で良いのではないか。

(会 長) それではD評価とする。

(各委員) 了承

No.9 公共施設マネジメント推進計画に基づく公共施設の最適化

(会 長) 推進計画の策定時期がR2年度にずれてしまったことからD評価で良いか。

(委 員) 単に建替えるだけであればすぐに出来るが、廃止等の議論が必要であったために、策定がずれこんだのかなと思ったので、C評価とした。

- (委員) 複数の建物を廃止し、1つの大きな建物を建てるといった具体的なことまで検討できていないのではないかと思います、厳しい評価とした。地元との協議は厳しい部分はあるが、乗り越えざるを得ない。和歌山市のように水道橋が落ちるなど、事故が起こってしまったは大変である。そうなる前に手を打つべきである。
- (会長) R元年度はD評価とする。R2年度については、計画の策定はしたが、具体的な手法の検討や地元との協議等を進められなかったということなのでC評価で良いか。
- (委員) いつまで検討を続けるのか。いつになれば実行に移すのか。
- (事務局) 計画で「廃止」となっている施設の中には、地元へ協議に入っている施設もある。ファシリティマネジメントの担当として、施設担当課の背中を押すような取組はさせていただいている。
- (会長) C評価で良いか。
- (各委員) 了承

No.10 公園街路樹維持管理業務の見直し

- (会長) R元年度について意見はあるか。
- (事務局) 具体的な見直し内容は、高木の剪定を2年に1回から6年に1回に見直した。また、公園内で周辺の家屋等に影響が生じない高木については、年数の縛りをなくし、支障が生じた場合に剪定するというところを実施した。
- (会長) B評価で良いのではないか。
- (各委員) 了承
- (会長) R2年度についてはどうか。住民との協働は、記載している事例以外にもあるのか。
- (事務局) 公園づくりのワークショップなど、様々な協働の取組をしている。
- (会長) B評価でどうか。
- (各委員) 了承

3 その他

- (事務局) 後期行動計画を策定するにあたっての課題として、指標の設定方法についての指摘があった。前期行動計画には、「取組により得られる効果」という項目があるが、これに言及する成果指標がない。単年度の評価で効果というところまで言及できるかについては検討が必要だが、後期行動計画では、単年度の取組により得られた効果を記載する欄があれば評価がしやすいと思うのだがどうか。
- (会長) すぐに答えるのは難しい。
- (事務局) これから計画案の策定を進めていく予定であり、案が出来た段階で示させていただくので、先日や今日の議論を念頭に置いていただき、議論いただきたい。

閉 会